

THE CITY OF YOKOHAMA

歴史を生かしたまちづくり

横濱新聞

第2号

平成元年(1989)8月26日発行

企画編集・発行 / 横浜市・横浜市歴史的資産調査会

事務局

横浜市都市計画局都市デザイン室

〒231 横浜市中区港町1-1

TEL.045-671-3470

FAX.045-664-3366



撮影:米山淳一

積みあげられた美学——横浜市開港記念会館

堀 勇良

(横浜開港資料館・横浜市歴史的資産調査会会員)

横浜市開港記念会館のドーム群復元工事が完成した。大正12(1923)年の関東大震災で焼失し、震災復旧工事では修復されなかつた部分だ。

大小角ドームを両脇に従えた高さ35mの時計塔を扇の要にして、両翼隅部に曲面角ドームと八角ドームを配した形姿は、さしつけ千秋樂の三役揃い、ぶみといつたところか。各ドームに取付くさまざまな飾りと尖塔がいっそうの華を添える。これほどまでに多彩なスカイラインをもった建物は他になからう。大正期の赤レンガ建築が初めてなじえ、技が。(もっとも、震災後赤レンガは全く建てられなくなってしまったので、結果的に最後の赤レンガ建築となってしまったのではあるが。)

ドーム細部の意匠は、原設計図面あるいは竣工写真への

数度のたち戻りを経て確定された。もとより資料不足で途方にくれた箇所もなかったわけではない。最初はやみくもに形状のみの復元に終始したが、そのうちにある種の原理原則があることに気がついた。思えば当然のことである。この建築は、小さなものから順々に積みあげていく、まさしく「組積造」の建築なのだ。削形(くりかた)とよばれるディテールも一見恣意的に見えるが、つまるところ上の部材を支持する範囲において恣意的であるに過ぎない。そう思うとやや気が楽になり、謎げな写真でも形状がそれなりに見えてくるから不思議だ。

この復元されたドーム群は、赤レンガと白い花崗石との外周壁と同様に、「積みあげられたものの美学」を主張しているように見える。ディテールの復元設計に賛同してその感は深い。



横浜市開港記念会館
(ドーム群復元工事完成)

横浜開港50周年の記念建造物。懸賞設計当選福田重義案を基に、山田七五郎・佐藤四郎・木村龍雄らが実施設計にあたり、大正6(1917)年6月竣工。内部は関東大震災後復旧時のデザインでまとめられており、外観の明治調(辰野式フリーガラシック)と対比をなす。ステンドグラスも見どころのひとつ。今年秋、国指定重要文化財となる予定。

NEWS

美と平和を愛した 親日家 鎧なき騎士 C.B.バーナード

本牧の三渓園付近に、ハーフチンバー2階建のしゃれた洋館が建つ。昭和12年、チェコの建築家J. J. スワガーハーの作になり、横浜でも有数の名建築との呼び声もある。

よい建築は、建築主と建築家の共同作品と言われる。この洋館の主人バーナード家を訪ねると、建築主E. V. バーナードの父C. B. バーナードに、その優れた美的センスをもつ建築主のルーツを見いだすことができた。



C.B. Bernald and his wife.

C. B. Bernaldは明治9年(1876)に来日した。そのとき若冠23歳。長身で、青い目をもつ青年バーナードは、茶の賣い付け商人として横浜に上陸した。イギリス南部の美しい田園地帯サマーセットシャーに生まれた彼は、絵を描くことが好きだったが、政府高官であった父の反対で、画家志望を断念し、貿易商の道を歩むことになった。彼は冒険の旅に出た。

遠く極東の國に来た彼は、横浜を拠点に静岡へと向かう。茶葉から茶葉へ。さまざまな新茶の葉を摘むと、今度は太平洋を超えてサンフランシス

コへ。大陸横断鉄道に飛び乗り、一路トロント、ニューヨークをめざす。茶のサンブルをいかに早く届けるかが、このビジネスの勝負だった。

実業で成功した彼の選んだ家庭は「Prove・Virtue・Florist」(徳は繁栄の証)である。自己に厳しく、仕事の悩みも家には持ち込みず、ユーモアあふれるジョークで人を笑わせ、日本人の裏にやさしく接した。その姿には、騎士道の精神を受け継ぐ典型的な英國紳士の面影が浮かぶ。

居留地の人気画家ワーフマンとの出会いは、彼の後半生を大きく変える。始めは余暇の趣味に、引退後は頻繁に水彩画を描いた。子供のころの夢を日本で実現したのである。作品の中には、資料として横浜開港資料館に収められているものもある。横浜はもちろん、日本各地をスケッチ旅行してみて、彼は改めて日本の風景の美しさに感動したという。

その美しい日本が第2次大戦への道を歩もうとしたとき、彼は心からそれを悲しんでいたという。戦争中は、南米へ身を寄せた彼だったが終戦とともに忘れられぬ日本に戻り、間もなく亡くなった。彼の遺骨は山手の外人墓地に眠っている。

(岡部昌幸・美術史家)



ガンド、彼の手堅い作風が最もよく表現されているものと言っていた。

鉄筋コンクリート2階建で、正面にはイオニア式のジャイアント・オーダーやコニスがあり、古典的な様式美を誇った。吹き抜けになった営業室内部にもコリント式ピラスターや格天井をもち、外國銀行らしい雰囲気を漂わせていた。

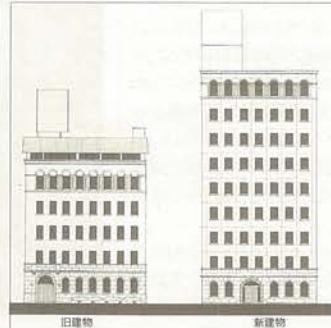
第2次大戦中の閉鎖時期を除き、外国人ビジネスマンや旅行者、軍人などで賑わい、女優のオードリー・ヘップバーンも来店したという。

昭和60年、惜しまれながらも解体され、このほど新しいビルが建ち上がった。取り壊しの際、その歴史を伝えるため保存された正面扉が、ヘップバーンの伝説を秘めながら、新ビルに取り付けられている。

外観のイメージを継承した 協栄生命ビル

足元の石張りの外壁に、2階以上は白いタイル張り、最上階にはアーチ窓——特徴のある外観のデザインが新しいビルに取り入れられた例として、本町4丁目にある協栄生命横浜ビルが注目を集めている。

関内地区には、戦前からの歴史をもつ近代洋風建築のビルが幾つか残されているが、いずれも建築後80年程度を経て、建て替えの時期に入っている。このビルも様々な事情から建て替えられることになったが、昭和5年建築という歴史的・景観的な価値を継承していくため、検討の結果



扉一枚の語る外国銀行史

かつて、中区山下町74番地(本町通沿い)に古典様式の典型的な銀行建築があり、市民や利用者に親しまれていた。世界有数の大銀行、ナショナル・シティ銀行横浜支店である。

同銀行は明治35年横浜支店を開設、関東大震災で倒壊した後、外国航路全盛であった昭和5年その建物を新築した。設計者は、最後の居留地建築家と呼ばれるJ. H. モー

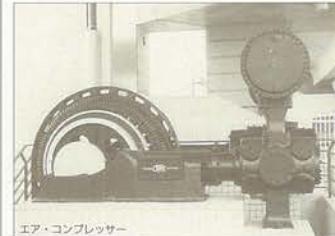
イメージの保存という手法がとられた。

新築の設計にあたり、旧ビルのデザインモチーフをふんだんに取り入れつつも、インテリジェントビルとしての新しい機能との共存を図り、柱などの旧部材を再利用するなど細かい配慮がされている。

こうした中で、このイメージの継承という手法は、歴史的建造物の保全そのものではないが、歴史ある都市の雰囲気を伝え、創造していくことをねらいとしており、周辺のまちづくりへの波及効果が期待されている。

1号ドックに残る往年の 機械たち

帆船日本丸が保存されている1号ドック。船を建造したり修理したりするドック本来の役目を経え、現在は日本丸メモリアルパークとして公開されている。そのパークの一画に、かつてドックで大切な役割を果していた機械がある。諸機械の動



エア・コンプレッサー

力となる圧縮空気を送るエア・コンプレッサー(1918年アメリカ製)と隣にある2号ドックとの間の地下ポンプ室に置かれていた排水ポンプ(1898年イギリス製)がそれ。地味ながら往年の港湾産業都市横浜を象徴するこれらの機械、日本丸より更に古いだけに一見の価値ありと言えそうだ。

日本火災横浜ビル 数々の賞に輝く

外壁を保存することにより、創造的なビルに生まれ変わった日本火災横浜ビルは、完成以来各方面から注目を浴びていたが、その保存手法や街並景観への深い理解が評価を受け、続けて幾つかの輝かしい賞を受賞した。



1989年2月7日
第4回まちづくり功労者賞
(横浜市)
1989年4月12日
日本建築学会文化賞
(日本建築学会)
1989年6月29日
建設大臣功労者表彰
(建設省)

古民家を転用した ソバ屋さん 保土ヶ谷区今井町

200年ほど前に建てられた草葺き屋根の民家。それが保土ヶ谷区今井町に住む家主の高野清一さんの愛着に支えられて移築され、今はソバ屋と高野資料館になっている。ソバ屋の名は「上の家鶴



岡」。中に入ると黒光りのする柱としづらいい壁、昔ながらの落ち着いたぬくもりのある空間を保っている。

「お客様の入りは多く、評判はいいですよ。この民家の雰囲気も一役買っているんだと思います。忙しいですからね、古い家だからといって特に手入はしていませんが、今まで困ったことはありません。」とは長谷川良一店長(36歳)の言葉。

店内からトントンと狭い階段を上ると、そこが高野資料館。昔の教科書や素朴な農具たちが飾らぬふうに置いている。高野さんが家を移築する際出てきた、この地域で代々使われてきたものたちばかりだ。時々近くの小学生が、学校から郷土史の勉強にやってくる。住宅地へと周辺が変わっていく中で、この民家は大切な地域の歴史をさりげなく語り伝えている。

■催し物案内

この欄では、「歴史を生かしたまちづくり」に関連する、横浜市及び周辺都市での様々な催しを紹介します。参加料は特に明記してあるもののほかは無料です。関心のある方はぜひご参加ください。なお、この欄への掲載を希望される方は本編集部へご連絡ください。

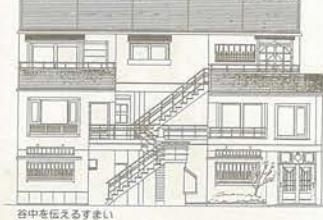
◎谷中学校Vol. 2

座談会「谷中を伝えるすまい」

江戸・明治の寺町の風情を伝える東京都台東区谷中は、どこか人をホッとさせてくれる町。——「谷中学校」とは、この谷中を愛する人々が、自らの手で谷中独特の住環境を守り育てていく手立てを考え、実践するにあたっての寄り合いです。

今回も、谷中の生活文化(すまい方)を伝えるこれまでの住まいの考え方とその実現化について提案モデルを中心に座談会を行います。

日 時 8月3日(日)午後2時~
場 所 谷中コミュニティセンター(台東区谷中5-6)
問合せ 手島尚人さん 03(3271)1372
森 昌子さん 045(562)4836
山手総合計画研究所内



●横浜市開港記念会館重文指定 記念イベント

「ジャックの塔」と親しまれている開港記念会館が、ドーム群復元工事竣工を契機に、この秋国指定重要文化財に指定されることになりました。(詳細は1ページに掲載)これを市民の皆さんと共に祝う、記念のイベントを開催します。村松貞次郎さん(法政大学教授)ほか各界の著名によるパネルディスカッションにご参加ください。

日 時 9月30日(土)午後1時30分~5時
場 所 横浜市開港記念会館
問合せ 横浜市建築局企画審査課 045(671)2958

●歴史を生かしたまちづくりセミナー3

都市づくりの中で、その街独自の歴史を伝える景観や建造物をたいせつにしていくという動きは世界的な広がりをもってきています。そこで今回は、英米シックトラスト理事A.バーシバル氏を招き、歴史的建造物やまちなみの保存と現代的な再生、活用や、そこにつかわる市民や企業の活動や意識などについて、イギリスでの事例を交えて考える機会とします。

日 時 10月12日(木)午後6時~
場 所 横浜市開港記念会館
問合せ 横浜市歴史的資産調査会事務局(横浜市都市デザイン室) 045(671)3470

●第3回「横浜まちなみ景観賞」公募

優れた都市景観の創造や保全に寄与したまちなみや、建造物などを顕彰し、横浜らしい個性と魅力あるまちづくりをより広めようため、受賞候補を公募します。

★募集期間 10月1日~10月31日
★募集要項と応募用紙 募集期間中、下記のところに置いてあります。

●市役所本庁舎 1階の刊行物サービスコーナー
●各区间所 区民相談室、建築課

★審査候補 候補の中から、横浜市都市美対策審議会が審査の上選考します。

★問合せ 横浜市都市計画局都市デザイン室
(〒231 中区港町1-1 045-671-2023)

●講演会

シックトラストの活動と理念

英国シックトラスト理事A.バーシバル氏による、調査会とセッションを行います。会場も歴史的建造物として有名な、東京駅丸の内口近くの日本工業俱楽部です。定員300名ですでの申し込みはお早めに。

日 時 10月23日(月)午後5時30分~8時30分
場 所 日本工業俱楽部ダイニングルーム(東京都千代田区丸の内1の4)

参加料 1000円(但し懇親会参加費は別途)

申込み 日本ナショナル・ラスト
千代田区丸の内2-4-1丸ビル338号
☎03(314)2831へ、ハガキか電話で。

●宿場の歴史で楽しくまちづくり

保土ヶ谷宿400周年祭

宿場町の歴史を生かして現代のまちづくりを考えよう——保土ヶ谷区の有志が集まって「保土ヶ谷宿400周年祭」が、昭和8年8月に発足した。400という数字は、1601年に保土ヶ谷宿が誕生し、今から12年後の2001年に400周年を迎えることからつけられた。

会の活動は、保土ヶ谷宿の軽井本陣の古文書調査、明治以前の歴史を中心とした地域史、宿場の町並み復元などの研究活動ほか、楽しい行事も行っている。宿場をテーマにしたオリジナルの落書きを会員が創作し、旧東海道沿いのお寺の本堂で「宿場落書きの会」を毎年開いているのがその代表例。また、10月29日(日)には宿場をテーマにした親子合戦コンサートを開催しよう、準備がすすめられている。

問合せ 斎藤恒樹さん 0334-5226

歴史を生かしたまちづくり要綱が本格的に始動

横浜市では、昭和63年4月にスタートした「歴史を生かしたまちづくり要綱」に基づいて、所有者の方々と力を合わせて歴史的な景観を保全し活用していく活動を始めました。

昭和63年度に3件、平成元年度に1件の歴史的建造物の認定を行い、そのうち3件の保全改修等に対し助成が行われました。また昭和63年度に横浜市の歴史的建造物登録台帳に物件を登録しました。

●歴史的建造物の認定および助成



〈日本火災横浜ビル〉矢部又吉設計、大正11年竣工。この春完成した改修工事では、馬車道側と隣接する県立博物館側の2面のファサードを保全しつつ現代に合った機能を持つオフィスビルに生まれ変わりました。改修に対して市からは3,300万円(外鋼保全、外構保全)を助成しました。



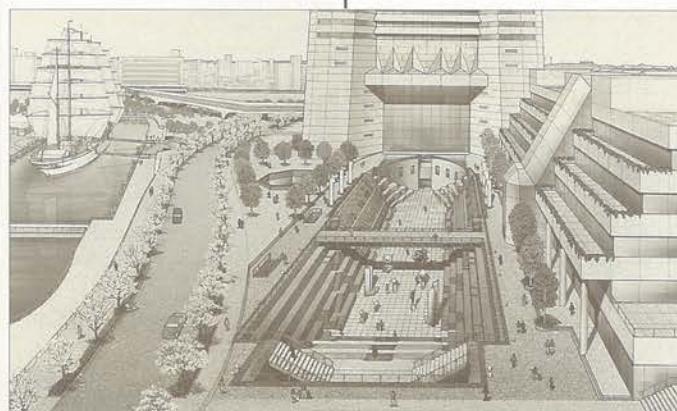
〈横浜指路教会〉大正15年竣工。閑内のビジネス街にあって貴重なランドマークになっている。道路に面した3面の外壁と屋根等を保全するとともに、外壁の装飾を創建時の姿に復元する計画です。改修のため、63年度は市から調査設計費200万円を助成しました。



〈カトリック山手教会聖堂〉チェコ人建築家スワガーデザイン、昭和8年竣工。山手通りに面した代表的なランドマークであり、外観全体の保全が図られます。外壁は全面的な補修を行っていく予定であり、63年度は調査設計費として200万円の助成をしました。

* 日本火災ビル、横浜指路教会、カトリック山手教会の3件については、維持管理助成(年額15万円)をあわせて実施。

〈旧横浜船渠第2号ドック〉現存する商船用ドックとしてわが国で最古のもの、明治28年竣工。「みなどみらい!」の新しいまちづくりのなかで移設復元し、市民が歴史的空间を体験できるような保全活用を図っていく予定です。



巨大な石造空間を保全活用へ 旧横浜船渠第2号ドック

旧横浜船渠会社の修船施設。創業にむけて長さ100m級の船舶を収容する2号ドック(明治30年開港)と、150m級の1号ドック(明治32年開港)との2基が建造された。H.S.バーマーの基本計画を、海軍技師恒川柳作が改訂設計し、牛島辰五郎らの監督によった。

昭和63年、所有者、学識経験者、市等による調査委員会を設立。学術的価値等検討の結果をふまえ、将来にわたる保全活用計画が策定され、平成元年4月、横浜市認定歴史的建造物となる。

「悩みに悩んで」

田中直之助

横浜国立大学教授『船舶工学』

2号ドックの設計者恒川柳作は、最初の基本設計者バーマーについて具体的な設計を実施した。彼は造船協会年報第3号で工事の詳細を述べているが、報告の行間に設計当時の苦悩が察知される。何が彼を悩ませたのだろうか。

当時日本が所有した船は3,000トン級までのもので14隻程度、そのうち約7%が輸入船、しかもほとんどが、英國建造であった。1860年代に船に鋼鉄が使用されると、強度の確保が容易になり、船型が細長くなった。近代造船学の父といわれるウイリアム・フルードが相似則に関する実験報告を行い、試験水槽建設の具体案を建議したのが1869年末である。以後理論の発達によって、いたずらに細長い船型は摩擦抵抗不利であることがわかる。次第に船の長さを縮める努力がなされる。1890年代に入るとその傾向が顕著になる。日本の輸入船は大半が中古船で古い船型、外國新造船は新しい船型。新旧混在した当時としてはこれを収容する効率のよい船渠寸法の決定は大問題であり、彼の悩みはここにあったと思われる。

悩みに悩んで決定された2号ドックはすばらしい効率を発揮した。営業船渠は経済性を重視しなければならないが、5大開港都市の横浜に位置する本ドックはそれなりの体裁を備えなければと石造りにした彼の思い。技術と社会、経済、アートまでを両立させた模範的な工学的設計の一例を見る思いがする。

「横浜の新しい名所」

三菱地所株式会社 横浜事業所

近代港都「横浜」の歴史の中で「ハマのドック」の愛称で市民に親しまれてきた旧横浜船渠。

三菱地所は、近未来都市「みなどみらい!」の玄関口となる25街区の開発を進めるにあたり、その敷地内に残る旧横浜船渠2号ドックを都市の歴史を伝える街づくりの資産として積極的に評価し、賑わいのブリザとして復元利用します。ドック内部はドライ状態で保全し、石で囲まれたダイナミックな空間を多くの人々に体験してもらうとともに、都市の記憶が未来へ伝えられていくことを願うものです。

復元された大空間は、ホテルやショッピングモール、さらには文化施設といった25街区のさまざまな機能、そして日本丸メモリアルパークや多目的広場といった周囲に展開される諸施設との連携を図りながら、演劇、音楽フェスティバル、ファッションショーや、多彩な都市活動の舞台として、多面的な利用を図ります。また、周囲には飲食施設なども配置し、このみなどみらい!地区に賑わいを演出する核施設の一つとして育てていく計画です。

最先端の技術を駆使した日本一の超高層建築と歴史的価値を持つ構築物との共存を目指したこの計画は、当社の理念である快適な街づくり、人間環境づくりの一環であるとともに、横浜の歴史を踏まえた「みなどみらい!」の一つの方向性を表現するものであると理解しています。完成は平成5年春を予定。現在日本丸が保留されている隣接の1号ドックとともに、市民に親しまれる横浜の新しい名所として発展させていきたいと考えています。



●歴史的建造物の登録

横浜市内に残る社寺、古民家、近代建築、洋館、土木産業遺構のうち、景観上重要なものとして8件が登録されました。

- ・社寺——熊野神社(港北区)ほか9件
- ・古民家——飯田邸(港北区)ほか10件
- ・近代建築——三井物産横浜ビル、横浜銀行教会ほか14件
- ・洋館——イギリス館、山手聖公会ほか21件
- ・土木産業遺構——旧横浜船渠第2号ドック

横浜港と土木遺産

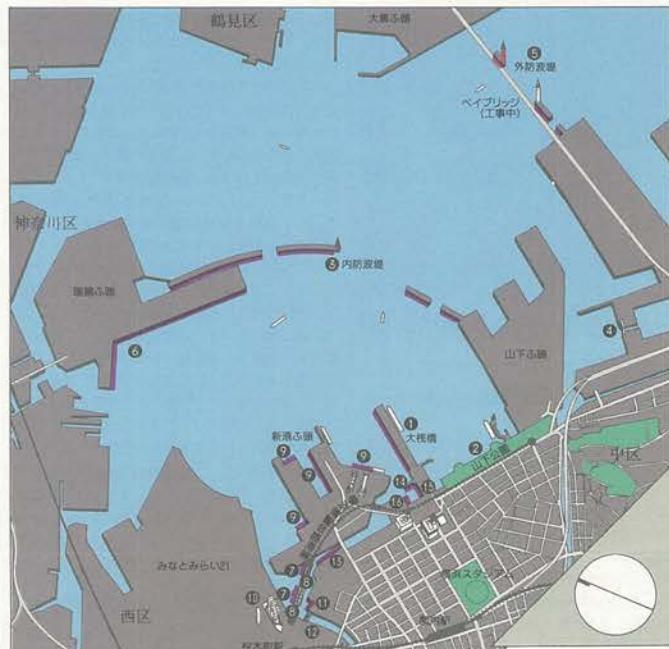
宮村 忠（関東学院大学教授、横浜市歴史的資源調査会副会長）

「横浜」の港は、安政6(1859)年の開国以来、新しい文化や産業や風俗にかかわる日本の窓口となってきた。同時に、新しいまちづくりや港づくりにもう近代土木技術導入の窓口となってきた。

H.S.バーマーを筆頭とした外国人技術者の設計・指導による構造物と、近代技術をいち早く学び取って自効力を展開した構造物とは、そのいくつかが現在でもエキゾチックな横浜の名物とさえなって残っている。こうした土木構造物の数々は、横浜のたどりてきた歴史を記憶しているだけにとどまらず、日本の近代土木技術導入の貴重な記憶をもあらわしている。

例えば横浜博覧会臨港線で日本丸駅を出発してから渡る2つの鉄橋は、明治につくられたアメリカ系トラス橋であり、新港埠頭と山下公園方面とをつなぐ鉄橋は、大正元年につくられた国産トラス橋である。

連続したトラス橋の風景にも、また港に点在する灯台や埠頭護岸にも、時のひろがりと、日本の夜明けの息吹とか読みとれるのである。



①横浜港大橋樑（明治27~29年・鉄造）
第1次横浜築港工事で製造され、繫船岸壁出現以前の中心的繫留施設である。現在の国際旅客ターミナル（昭和39年）は桟橋上屋の3代目にあたり、今なお横浜港の象徴的存在となっている。



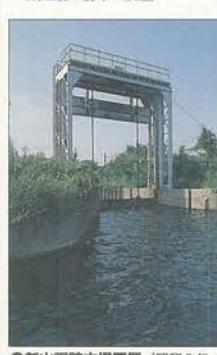
②横浜港内防波堤と赤灯台（明治23~29年・鉄造）

明治20年代にバーマーの手により築造された第一次横浜築港工事の遺構。東北隅水堀により閉じ込まれた横浜港は、これにより国際貿易港としての基礎を固めた。港口に設置された赤白対の灯台は当時のまま現存し、赤灯台は当時の位置に、白灯台は山下公園氷川丸桟橋先端に移設されている。

市営貯木場に設けられた横浜唯一の閘門。潮の干満に関係なく水位を一定に保つ役割を果す。



③山下公園（昭和5年）
関東大震災後、建築物の瓦礫によって埋め立てられ、臨港公園が誕生した。震災復興にあたった先人たちの最も優れた土産のひとつといえ、港都横浜の顔といふべき存在になっている。



④新山下貯木場閘門（昭和8年・鉄骨）



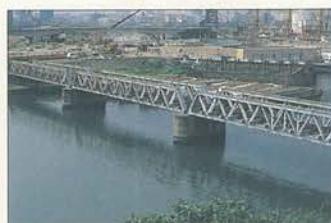
第3次横浜築港工事の遺構。防波堤の大部分は、本牧ふ頭と大黒ふ頭に取り込まれてしまつたが、トンガリ帽子の愛らしいメルヘン調の赤白灯台が当時と変わらぬ姿で船の出入りを見守っている。

⑤横浜港外防波堤灯台
(昭和14年・筋鉄コンクリート)



⑥旧灯台寮護岸（明治8年）と
波止場突堤（明治8年・石積）

大岡川右岸に残る旧灯台寮の間知石積護岸は、横浜では最も古い河川護岸である。また現第三管区海上保安本部構内（旧灯台寮）には、横浜のまちづくりに大きな足跡を遺したプランタンゆかりの突堤跡が現存している。



⑦瑞穂埠頭（昭和4~10年・鉄筋コンクリート壁体）
瑞穂埠頭の岸壁には昭和初期の港湾土木技術が集中的に投入されている。明治期に築造された新港埠頭石積護岸との比較がおもしろい。



⑧新港連絡鉄道線路護岸（明治43年?・割石練積）
谷積石垣が鉄道関係擁壁築造技術の系譜を物語っている。護岸の傾斜のがびやかでヒューマンな表情がいい。



⑨港一号・二号橋梁（明治40年・鋼トラス橋）

大岡川河口付近の新港連絡線（現・横浜博覧会臨港線）に架かる100フィート2連のトラス橋は、1907年アメリカン・ブリッジ社製であり、クーパー型といわれる米国系トラスの遺構。



⑩日新運輸倉庫護岸（明治6年・間知石練積）
万国橋南詰から西に延びる間知石積護岸は、旧日本波止場の位置を示す遺構である。



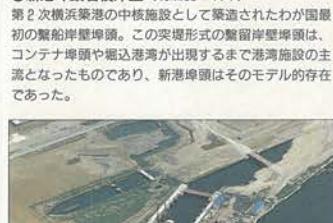
⑪象の鼻（慶応年間創建）

横浜での最初期の波止場。対向する旧7号護岸とともに幕末期の波止場の姿を伝える貴重な遺構である。大桟橋から西へ延びる独特の形から、いつの頃からか「象の鼻」と呼ばれるようになった。



⑫旧6号橋樋

（大正14年・錆鉄柱・鉄筋コンクリートスラブ）
関東大震災後の震災復旧施設。横桟橋方式の物揚場であり、創設時の大桟橋で使われていたスクリューバイ



⑬旧横浜船渠石造ドック

（明治29~32年・相模堅石積）

1号ドック・2号ドックは、第1次横浜築港の一環として計画された修船施設。わが国有数の本格的石積乾ドックである。（詳細はP3）



⑭旧7号護岸（大正13年・慶応年間創建）

象の鼻とともに、幕末期イギリス波止場の港域を示す遺構として貴重なものである。